

相撲の稽古・下町の商店街…

訪日客に学ぶ 通な歩き方



窓ガラス越しに朝稽古の様子を見学する外国人観光客（東京都中央区）

年々増え続ける外国人観光客。京都、銀座や秋葉原など、定番の「観光地」には多くの旅行者が押し寄せる。しかしメジャーなスポットだけではなく、自分なりの旅を楽しむ人もいます。彼らに話を聞いてみると、意外な発見に気づかされる。



コロッケを片手に食べ歩きをするスペイン夫婦（東京都台東区）

東京・日本橋浜町。大通りから少し入った所に早朝から外国人が集まる場所がある。彼らの視線の先では、力士たちが朝稽古の真っ最中だ。13年前、この地に部屋を構えた「荒汐部屋」。近所の人に気軽にのぞいてもらえるようにと、親方（元小結大豊）の発案で大きめの窓を設置した。いつしか外国人観光客が訪れるようになり、多い日は40人近くになることも。

稽古後は交流も

「空手や柔道は欧州でも見られるが、相撲は日本でしか生で見られない」。1時間ほど見学したスペイン人のエスターさんは、相撲は日本の文化を象徴しているという。イギリス人のケイティーさんは、「個人競技なのに大勢と一緒に練習をしている。そこが他のスポーツと違う」と新鮮に映るらしい。「規律を重んじ互いを尊重し

合うところが印象的」とも。外国人観光客の多くは宿泊先のホテルや友人からの口コミで訪れる。大半が欧州からで、全力でぶつかり合い、時に一瞬で勝負がつく取組に興味津々のようだ。

「力士が観光客と触れあうのはとても良いこと」。部屋のおかみさんは、「力士たちは海外の人にも関心を持ってもらえる立場にいるということを認識し、誇りを持てるようになる」と歓迎する。もちろん稽古中は脇目を振らないが、終われば一緒に記念撮影に応じるなど、コミュニケーションをとるのも慣れてきた様子だ。

稽古が終わり土俵を若手力士が丁寧にほうきで掃く姿があった。砂を中央にまとめ円すいの山を作る。表面を滑らかにすると、周りを五角形に飾った。そこに御幣（ごへい）を立て、塩を盛り三方にまく。土俵を清め守る伝統が引き継

がれている。単なるスポーツではなく、日本独自の文化や風習を垣間見ることができる点が外国人にとっては魅力なようだ。

穴場、ガイドブックに

東京のJR日暮里駅から歩いて5分ほどにある「谷中銀座商店街」。様々な業種約70店舗が全長170mほどの通りに軒を連ねる。野良猫がたくさんいることでも有名だ。しかし歩いていると猫よりも目立つのは外国人観光客の多さだ。本来は庶民の暮らしを支える商店街だが、国際色豊かな観光スポットに変わりつつある街、谷中の魅力を聞いてみた。

コロッケを片手に食べ歩きをするのはハネムーンでスペインから来たカップル。京都、金沢、白川郷などを観光し、最終日に谷中銀座商店街を訪れた。ハネムーンで普通の商店街？と疑問を投げかけると、「日本人の日常のライフスタイルを見てみたかったの」。路地裏に干されている布団や洗濯物など、生活感あふれる光景が彼らには新鮮らしい。「人の多い渋谷や秋葉原は一度行けばいい。ここは静かで心地良い。コロッケもおいしいしね」と口をそろえる。

東京に住んでいてもあまり訪れ

日常の新たな魅力発見